

つるまきまえ いせき 鶴巻前遺跡

この遺跡は、仙台東部道路の建設計画に伴い、平成2年～平成4年にかけて発掘調査が行なわれて古墳時代～近世までの遺構・遺物が見られました。

古代・中世について見てみると、前者は竪穴住居跡(23軒)、竪立柱建物跡、溝跡などが見つかっており、遺物は土師器、須恵器、布目瓦などが出土しています。特に漆書土器(当時文字の読み書きができた人は役人や僧侶など特定の人のみといわれる)や布目瓦(当時寺院や役所の建物に使用された)の出土は一般集落ではあまり見られないもので特別な集落であると考えられます。

後者については陶磁器、古銭などの遺物が発見されているが、遺構は古代の遺跡に重複してはかく乱が激しくよくわからない状態です。

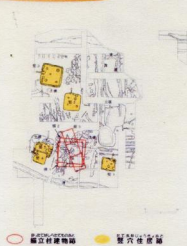
I-2-①

瓦について

瓦は、仏教の伝来とともに新羅半島からもたらされたもので、始めは寺院や官庁に使われた。粘土を焼く製法、乾燥させ窯で焼きますが、その過程で即焼布目瓦や凸部に刺さる瓦の跡がいたり、へらで文字が書かれました。

I-2-③

鶴巻前遺跡遺構配置図



I-2-②



I-2-④-a



I-2-④-b

竪穴住居を確認

I-2-④-b



I-2-④-c

移種べらでいぬいに掘る

I-2-④-c



I-2-④-d

掘り上げ状況

I-2-④-d



I-2-④-e

竪穴住居のカマド付近

(甕が逆さになって出土)

I-2-④-e



I-2-④-f

竪穴住居のカマド付近

(つぶれた土器の破片が散乱して出土)

I-2-④-f